

# 地域と連携した教育の学修成果と プログラム評価

高等教育質保証学会第14回大会 / 令和7年8月30日

信州大学 教育・学生支援機構教学IR室 古畑 翼



1.はじめに:信州SPARC「ShinXia」

2.ShinXiaの質保証モデル

3.ShinXiaにおける質保証の課題

4.おわりに

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。



# 1. はじめに：信州SPARC「ShinXia」

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。



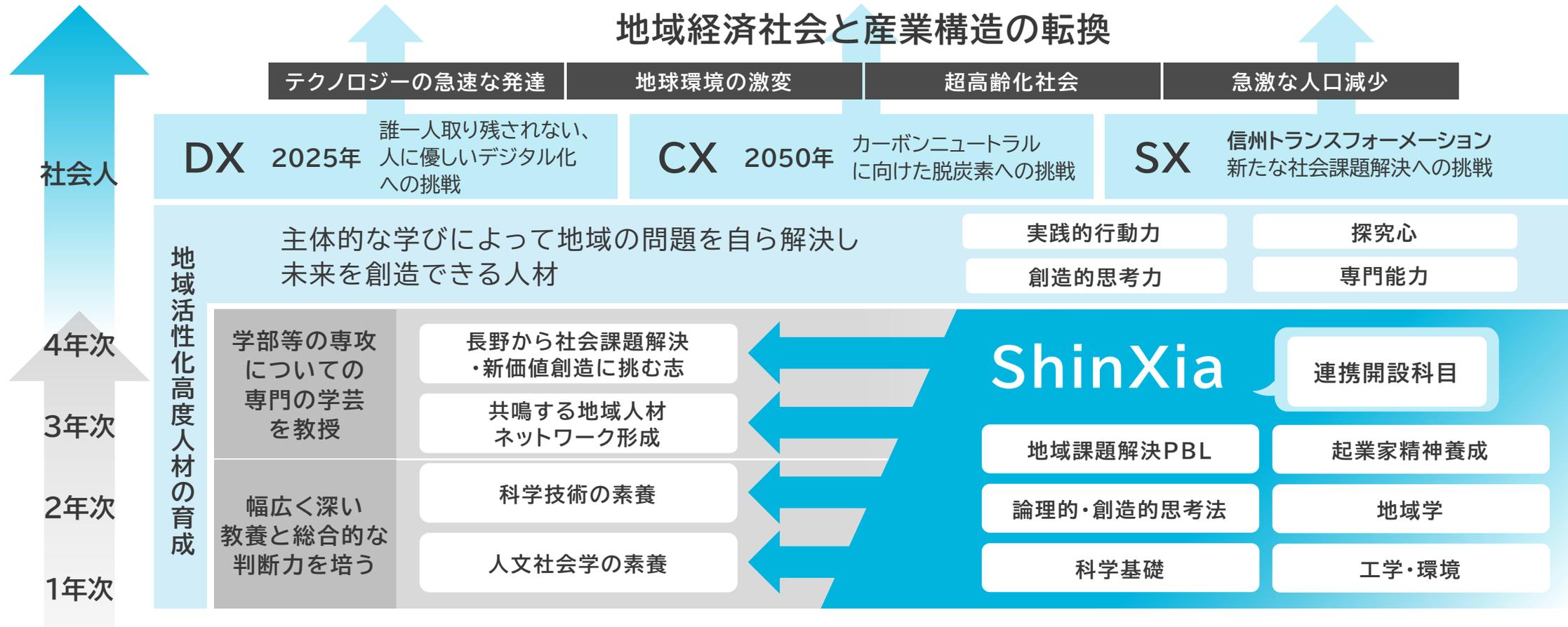
# SPARC事業を、独自に「ShinXia」と名付ける



信州の未知の可能性を切り拓き、これからの幸せを実現するための知(学び)を加速するプログラム



# 地域を牽引する人材の育成～長野県におけるSPARC事業の全体像





# 地域社会と大学間の連携を進めるプラットフォーム

## 信州共創プラットフォーム運営会議

### 目的

産学官の代表者により、プラットフォームの運営方針を決定

### メンバー

長野県知事  
信州大学長  
長野県経営者協会長

長野大学長  
松本大学長

信州大学 学長府

### (一社)信州アライアンス

#### 高等教育コンソーシアム信州

##### 設置経緯 目的等

2008年発足。地域の教育・学術研究の充実・発展を図るとともに、産学官による人づくり・まちづくりへ貢献する

##### メンバー

- ・信州大学、長野大学、佐久大学
- ・他県内8大学
- ・長野県

信州大学学務部

#### 産業人材育成会議 (SPARCコンソーシアム)

##### メンバー

- ・信州大学
- ・長野大学
- ・佐久大学
- ・長野県経営者協会
- ・八十二銀行
- ・長野県
- ・長野工業高等専門学校

年2回開催  
(6月・2月)  
計画・実績  
次年度計画・  
修了判定

信州大学学務部 SPARC推進本部

#### 産学官連携推進会議

##### 信州共用機器ネットワーク(SHINE)

##### メンバー

- ・信州大学
- ・長野県経営者協会
- ・八十二銀行
- ・長野県
- ・長野県産業振興機構

信州大学研究推進部

連携

連携

#### 長野県産業人材育成支援ネットワーク

##### 設置経緯 目的等

2007年から産学官金連携で地域産業の持続化に必要な人材を育成。人材育成・確保や県民のキャリア形成ニーズへの対応、課題解決への方策に関し、情報・意見交換、施策の検討等を実施

#### 長野県産学官連携協議会

##### 設置経緯 目的等

2009年からイノベーション創出による地域の経済発展を目指し、産学官金が連携した取り組みを推進

# 成果の確認と検証～外部評価委員による評価



評価指標の適切性および事業の達成状況の確認のため、5名の外部委員による評価を受ける

令和7年度 12月予定

# 事業参加大学・学部・学科とその定員



社会福祉学部

社会福祉学科

150人

経法学部

応用経済学科

100人

工学部

物質化学科

95人

電子情報システム工学科

170人

繊維学部

先進繊維・感性工学科

65人

化学・材料学科

105人

人間福祉学部

人間福祉学科

70人



学校法人 佐久学園

佐久大学

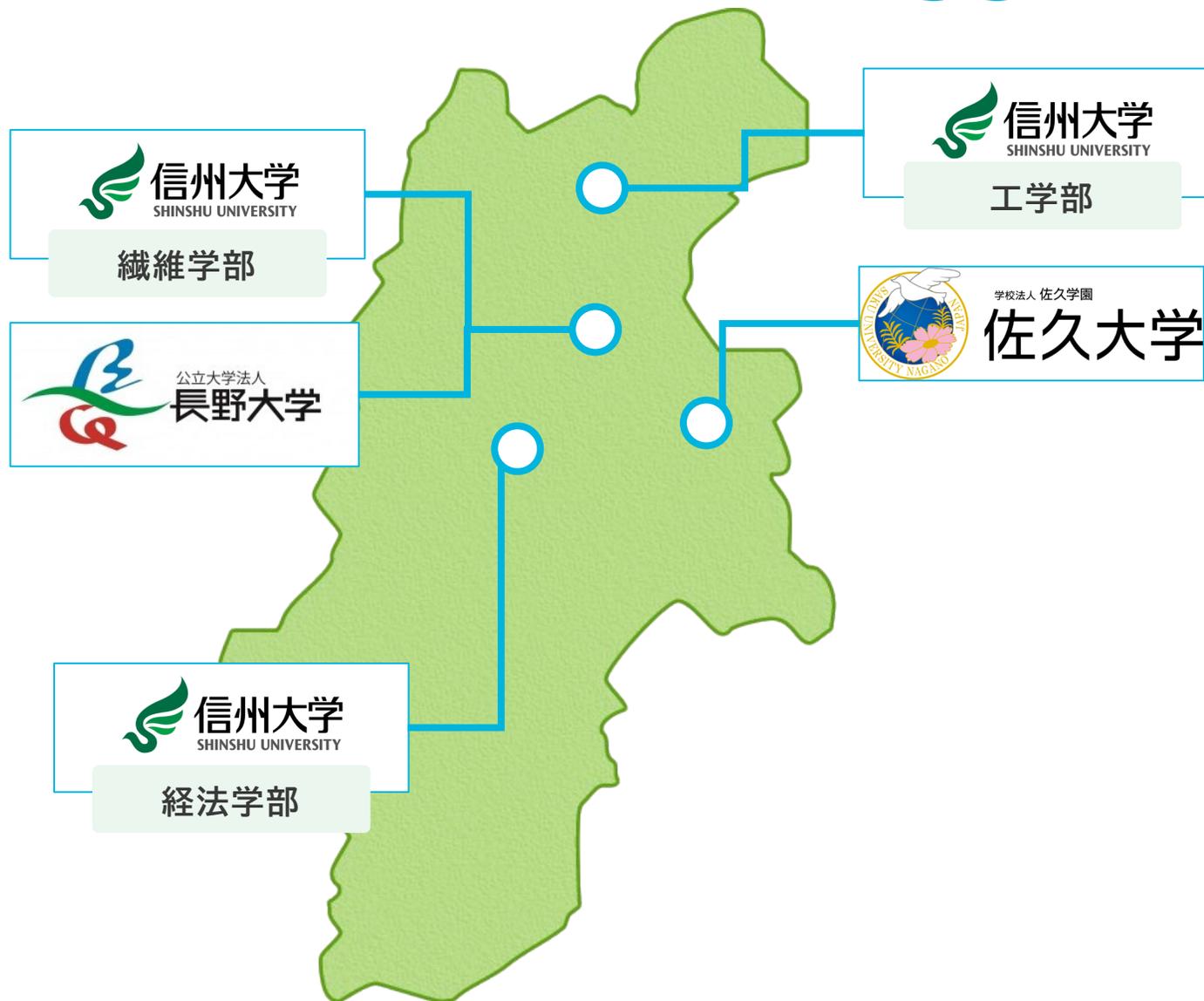
535人

※ 希望する  
学生のみ  
が履修

755人

## ShinXiaの特色

- 3大学(学部)所在地に  
地理的な距離  
→オンデマンド中心の  
連携開設科目  
→ShinXia-LMSへの  
情報の集約
  - ◆ 授業教材
  - ◆ テスト
  - ◆ 教員フィードバック



# 必修6単位を含む10単位修得で地域活性化人材に認定

各大学の教養教育

1年次

履修相談 / ガイダンス

**必修** データサイエンスリテラシー 1単位

**必修** 信州学 1単位

**選択必修** [科学]から2単位

**選択必修** [工学・環境]から2単位

**選択** 統計リテラシー 2単位

**選択** 立志学 1単位

**選択** ミクロ経済学入門 2単位

**選択** 社会福祉の考え方 2単位

2年次

**必修** 地域課題解析講座 1単位

**必修** 経営組織論 1単位

3年次  
4年次

**必修** 地域課題PBL 2単位

**選択** インターンシップ

修了認定デジタル証明(オープンバッジ) (一社)信州アライアンス:3大学の学長から交付で検討中

**必修** 6単位 **選択科目** 4単位、合計10単位を取得することで、  
ShinXiaプログラムの修了認定を得る

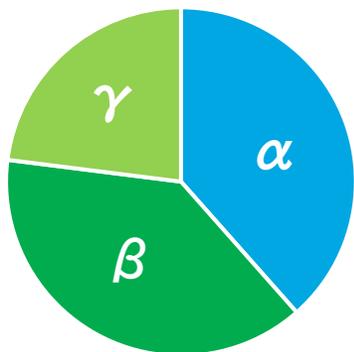
興味に応じて履修可能

卒業認定

## 2. ShinXiaの質保証モデル

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。





定義

## 地域活性化人材とは

文系・理系の枠を超えた  
知識・教養、専攻分野に  
おける知識

課題設定・解決力、  
論理的思考力、創造力

主体性、チームワーク、  
リーダーシップ、協調性、  
柔軟性

行動特性

$\alpha$

信州の活性化に係る  
**知識・技能**

$\beta$

信州の活性化に係る課題を  
発見・解決するための  
**思考力・判断力・  
表現力等**

$\gamma$

信州の活性化に係る課題を  
**主体的・対話的に  
発見・解決しよう  
とする態度**

# 連携開設科目と行動特性 $\alpha$ (39), $\beta$ (36), $\gamma$ (7) の対応

科目区分	授業名	単位数	質保証			SPARC認証	
			$\alpha$	$\beta$	$\gamma$	必修・選択	認証単位数
STEAM教育	統計リテラシー	2				選択	
STEAM教育	データサイエンスリテラシー	1				必修	1
STEAM教育	物理学の世界	2				8単位から 選択必修2単位	2
STEAM教育	化学の世界	2					
STEAM教育	生物学の世界	2					
STEAM教育	地学の世界	2					
STEAM教育	工学入門	2				4単位から 選択必修2単位	2
STEAM教育	環境学入門	2					
地域学	信州学	1				必修	1
地域学	信州学 (佐久学)	1				必修	1
地域学	立志学	1				選択	
地域学	地域課題解析講座	1				必修	1
地域学	地域課題PBL	2				必修	2

科目区分	授業名	単位数	質保証			SPARC認証	
			$\alpha$	$\beta$	$\gamma$	必修・選択	認証単位数
起業家精神養成	ミクロ経済学入門	2				選択	
起業家精神養成	マクロ経済学入門	2				選択	
起業家精神養成	経営組織論	1				必修	1
起業家精神養成	情報活用型ビジネスソリューション	2				選択	
起業家精神養成	アントレプレナーシップ入門	1				選択	
起業家精神養成	ビジネスとマネジメント	2				選択	
起業家精神養成	環境法入門	2				選択	
STEAM教育	社会福祉の考え方	2				選択	
地域学	地域と福祉	2				選択	
STEAM教育	こころとからだの健康	1				選択	
STEAM教育	STEAM教育概論	1				選択	
STEAM教育	心理学	2				選択	
地域学	インターンシップ	1				選択	
計		42	39	35	7		10

# ShinXiaの学修成果評価モデル

	科目レベル	プログラムレベル
直接評価	成績評価・パフォーマンス評価	
間接評価	授業アンケート ・ 授業達成目標に対する自己評価 ・ 達成感 ・ できるようになったこと／ 学んだこと[自由記述]	ポートフォリオの活用 ・ PBLに向けた学びの記録 ・ 地域活性化人材行動特性の 習得度ふりかえり(自己評価)

+

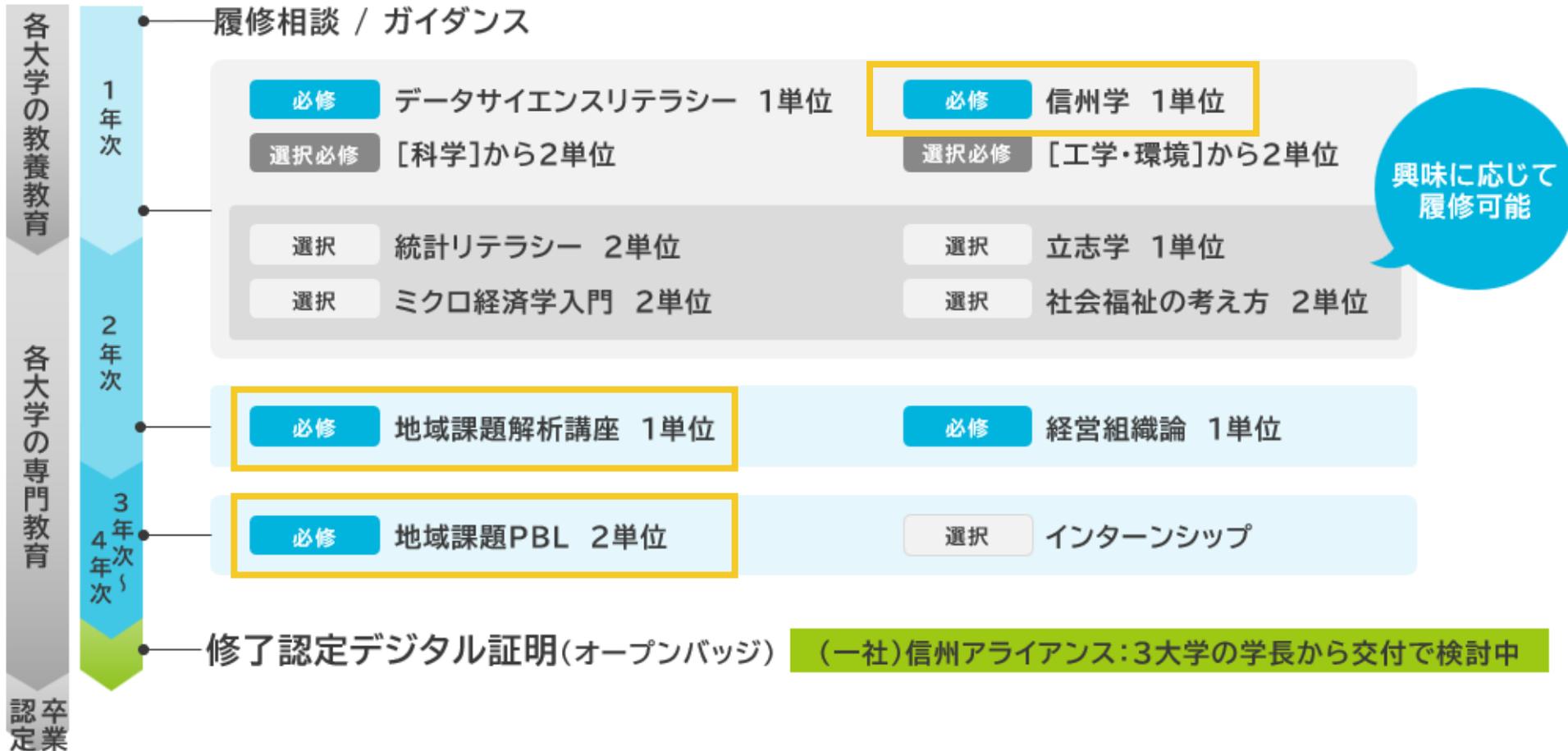
重要科目に埋め込まれたパフォーマンス評価(PEPA)の部分的導入

## 重要科目 に埋め込まれたパフォーマンス評価(PEPA)の部分的導入

- PEPA(Pivotal Embedded Performance Assessment)…  
「重要科目」での評価をつなぎ合わせることで、プログラム全体での学習成果を学習の進捗状況と併せて把握していこうというアイデア(松下, 2025, p.207).
  - 重要科目=その授業科目の目標がプログラム全体の目標に直結する科目(それまでに学んだ知識やスキルを統合し, 高次の能力を育成・発揮することを求める科目)(同).
- PEPAの強みは, 重要科目の系列化による学びの<軌跡>の把握を通じて, 科目全体の単位認定による学びの<総和>の把握を補完することにある(同, p.216).

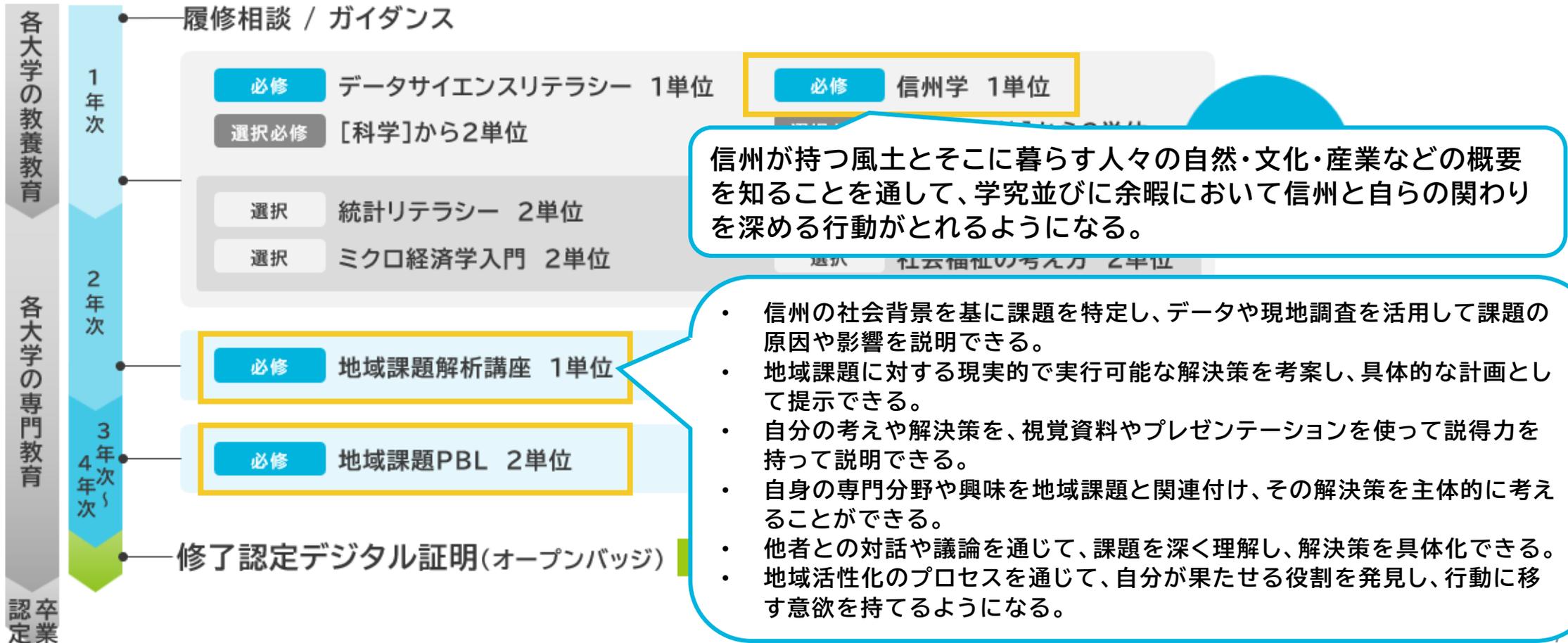
# 重要科目 に埋め込まれたパフォーマンス評価(PEPA)の部分的導入

- 地域活性化人材としての行動特性に密接に関わる科目において、特に学生のパフォーマンスを重視して評価する。



# 重要科目 に埋め込まれたパフォーマンス評価(PEPA)の部分的導入

- 地域活性化人材としての行動特性に密接に関わる科目において、特に学生のパフォーマンスを重視して評価する。



## 重要科目 に埋め込まれたパフォーマンス評価(PEPA)の部分的導入

- 地域活性化人材としての行動特性に密接に関わる科目において、特に学生のパフォーマンスを重視して評価する。
  - 例:信州学(1年次)の場合
    - 信州の風土や暮らし, 自然・文化・産業等に関する全8回の講義科目.
    - 評価の対象とする学習内容:
      1. 毎回実施する5択クイズ10問の結果
        - 2025年度(2年目)より実施. [オンデマンド動画視聴に対する動機づけと知識の定着](#)につながった(次ページの成績分布参照).
      2. 毎回課すスライド作成
        - 授業の中で興味を持ったことについて調べ, スライド3枚に整理する.
      3. まとめとしての信州をアピールするパンフレットの作成
    - 主・副担当3名の教員によるモニタリングを実施.

## 重要科目 に埋め込まれたパフォーマンス評価(PEPA)の部分的導入

- 重要科目のタイミングで、行動特性の習得度について自己評価(5段階評価)を行い、ポートフォリオに記入する。

### $\alpha$ : 信州の活性化に係る知識・技能

1. 文理を問わず、信州の活性化に向けた知識が身についている。
2. 信州の活性化に関する課題を多面的、科学的に分析する技能が身についている。

### $\beta$ : 信州の活性化に係る課題を発見・解決するための思考力・判断力・表現力等

1. 信州の活性化に関する知識と技能に基づいて、解決すべき課題を自ら設定し、それを解決できる。
2. 信州の活性化に関する課題を解決する取組みを、相手に応じてわかりやすく表現できる。

### $\gamma$ : 信州の活性化に係る課題を主体的・対話的に発見・解決しようとする態度

1. 信州の活性化に関する課題を解決する取組みに、答えのない状況でも粘り強く取り組んでいる。
2. 信州の活性化に関する課題を解決する取組みの中で、学習(もしくは取組み)がうまくいくように調整しようとしている。
3. 信州の活性化に関する課題を解決するために、社会(地域、組織、チーム等)における自身の役割を理解しながら、他者と協働することができる。

### 3. ShinXiaにおける質保証の課題

信州のしあわせを、共に考え、共に創り出していくために。



## ShinXiaにおける質保証の課題①

- 現状, 学修成果を(直接/間接)評価する主体は教員と学生である.

→ 地域(企業)の視点を十分に取り入れられていない.

- ◆ プログラムの質保証が外部の参照点も外部からの目も無い学内で閉じた自己点検でしかなければ, 大学外からは信用性が低く見られかねない(林, 2020, p.19).

	科目レベル	プログラムレベル
直接評価	成績評価・パフォーマンス評価	ポートフォリオの活用 <ul style="list-style-type: none"> <li>• PBLに向けた学びの記録</li> <li>• 地域活性化人材行動特性の習得度ふりかえり(自己評価)</li> </ul>
間接評価	授業アンケート <ul style="list-style-type: none"> <li>• 授業達成目標に対する自己評価</li> <li>• 達成感</li> <li>• できるようになったこと/学んだこと[自由記述]</li> </ul>	

+

重要科目に埋め込まれたパフォーマンス評価(PEPA)の部分的導入

# 学内先行事例の紹介:ENGINE(COC+R)

地域企業と独自に開発したルーブリックを元にして、  
チームメンバー、企業メンターからのフィードバック機会を  
定期的に作ることで自身のありたい姿に向き合う。

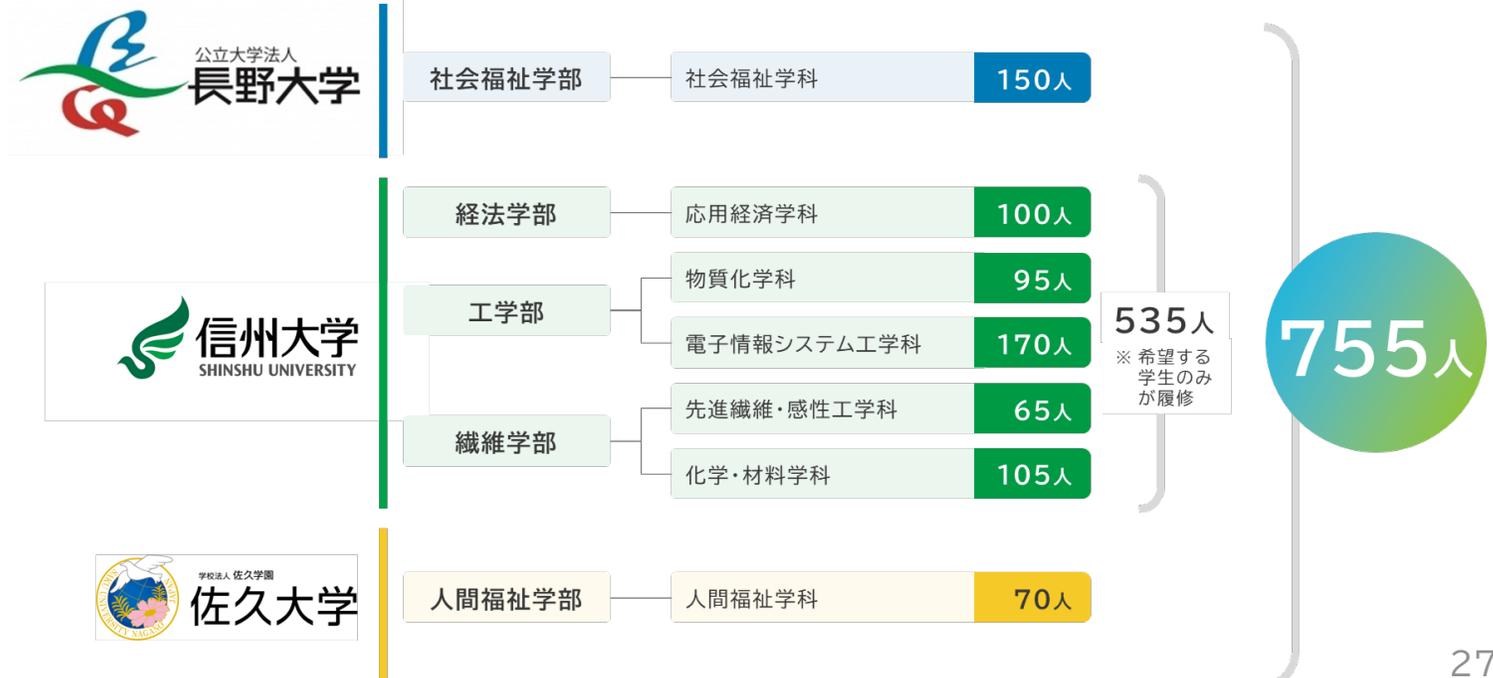
## ◆ENGINEルーブリックを学生・大学・企業で共有、測定

STEP1 : 事前	STEP2 : 実施	STEP3 : 実施後①	STEP4 : 実施後②
各自目標を設定し、企業に伝える	目標を意識しながら参加	企業からフィードバックをもらう	実施後の自己評価（測定）をする
ENGINEルーブリックに基づき、学生自身が着目して欲しい力とその目標を設定し、インターンシップを通しての成長計画をグループ内学生、企業の方と共有する。企業からはフィードバックをもらい、意識合わせを行う。	自身が設定した目標を意識しながら、インターンシップに参加する。月1程度、ENGINEルーブリックの8つの力について、自己内省の時間を設け、グループ内学生、企業の方と共有し、フィードバックをもらい、目指すべき方向性の再確認を行う。	最終振り返り回で、ENGINEルーブリックの着目して欲しい力について目標が達成できたか、自己内省しつつ、学生、企業の方、教員と共有し、フィードバックをもらう。	学生、企業の方、教員からもらったフィードバックに基づき、もう一度自己内省を行う。ここでは、ENGINEプログラムを修了した最終的なENGINEルーブリックの自己評価を行う。



## ShinXiaにおける質保証の課題②

- オンデマンド授業中心のカリキュラムにおいて、学生同士・教員(+地域・企業メンター等)と学生によるインタラクティブな評価をいかに実現するか。
  - 障壁となるのは参画大学間の地理的距離とプログラム履修人数。
  - クラスサイズに応じたPBL科目を設計中。



## おわりに

- ◆ 学生を受け入れて2年目(参画大学すべての学生が履修し始めて1年目)のShinXiaの質保証の取り組みは端緒にすぎたばかりであるため、皆さまとの議論を通じて知見を深めたい。
- プログラム評価における地域(企業)の視点
  - “集大成”としてのPBL科目のパフォーマンス評価
- 質保証モデルを機能させるための形成的モニタリング
  - オンデマンド科目の質保証や大学間を結ぶ学習支援体制の構築.
  - 教員評価と(学生による)自己評価との乖離の検証.
  - ポートフォリオを活用した成長度の測定.

## 参考文献

- 松下佳代(2025)『測りすぎの時代の学習評価論』勁草書房.
- 林隆之(2020)「大学評価の20年」『高等教育研究』第23集, pp.9-31.

ご清聴ありがとうございました。